

# 豊島廃棄物等処理事業の実施状況(平成26年6月末まで)について

## 1 豊島廃棄物等の処理量

(単位:トン)

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	H15~H25計	平成26年度(暫定)	累計
計画面量	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	77,785	81,211		23,899	
処理量	26,681	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	70,995	71,599	80,654	669,394	18,856	688,250
処理量/計画面量(注)	75.3%	88.8%	90.0%	87.0%	86.8%	97.7%	98.0%	105.4%	99.0%	92.0%	99.3%	93.8%	78.9%	93.4%
処理量/全体量	2.9%	5.9%	5.9%	5.7%	6.0%	6.7%	7.7%	8.2%	7.8%	7.9%	8.9%	73.5%	2.1%	75.6%

- 1) 処理量＝中間処理施設における処理実績＋岩石等特殊前処理(水洗)＋直下汚染土壌処理実績
- 2) (注)の平成15年度の計画面量は、平成15年9月18日(本格稼働)からの計画面量で、処理量は試運転期間を含む実績である。
- 3) 全体量は910,955トンである。

## 2 副成物の発生量及び有効利用量

(単位:トン)

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	累計	
鉄	発生量	16.2	305.7	323.2	345.5	321.3	368.4	546.1	672.8	643.9	613.3	625.5	156.8	4,938.7
	販売量	9.8	312.1	296.8	333.8	353.3	366.5	383.7	517.6	444.5	423.5	525.3	122.8	4,089.7
銅	発生量	273.0	404.8	450.4	625.7	518.6	492.2	608.6	790.2	850.6	966.4	1,070.9	425.7	7,477.1
	販売量	161.9	505.8	457.3	628.9	507.3	502.3	598.7	741.6	781.9	904.6	955.3	296.9	7,042.5
アルミ	発生量	88.1	48.3	58.1	58.1	215.1	232.3	409.2	291.4	418.4	494.8	487.7	408.2	3,209.7
	再選別	0.0	0.0	0.0	158.5	107.7	38.2	0.0	0.0	0.0	1,094.6	457.6	1,856.6	
	販売量	30.5	0.0	0.0	15.6	0.0	43.2	28.9	0.0	0.0	32.8	6.1	157.1	
溶融飛灰	発生量	1,180.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	2,501.3	2,662.2	2,377.9	643.0	25,445.1
	処理量	1,180.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	2,501.3	2,662.2	2,377.9	643.0	25,445.1
溶融スラグ	発生量	11,094.5	32,398.5	34,705.8	32,114.4	31,428.2	30,751.4	34,851.1	33,842.6	34,708.6	33,949.5	38,016.1	10,642.2	358,502.9
	販売量	0.0	16,244.7	32,073.1	37,664.2	27,010.3	29,541.7	31,276.9	29,187.7	26,594.6	33,889.8	33,552.1	6,736.1	303,771.2
	処理量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	258.8	258.8
粗大スラグ	発生量	-	-	-	1,068.6	2,322.9	5,977.5	6,590.8	5,471.9	5,779.8	5,681.7	7,983.9	2,895.6	43,772.7
	販売量	-	-	-	(1,068.6)	(2,272.9)	(4,654.7)	(4,664.2)	(3,845.1)	(4,609.2)	(3,146.6)	(6,336.9)	(563.4)	(31,161.6)
	処理量	-	-	-	-	-	-	1,993.1	2,771.0	1,179.8	1,946.1	1,839.3	2,953.6	12,682.9
シルト状スラグ	発生量	-	-	-	159.1	1,400.0	3,073.9	4,552.4	5,093.3	4,037.9	3,657.0	3,754.0	1,236.5	26,964.1
	処理量	-	-	-	0.0	1,400.1	2,467.3	4,343.3	4,698.1	3,961.7	3,545.2	3,058.6	980.2	24,454.5
清掃ダスト	発生量	-	-	-	88.2	79.5	175.4	82.0	95.6	61.8	69.3	62.5	0.0	714.3
	処理量	-	-	-	0.0	167.7	96.8	126.7	129.5	61.8	41.7	43.2	46.2	713.6
仮置き土	発生量	-	-	-	-	-	621.0	2,690.0	4,410.4	3,633.5	4,095.9	2,564.6	976.5	18,991.9
	処理量	-	-	-	-	-	-	2,961.9	4,590.5	3,762.6	4,008.0	2,531.6	1,600.8	19,455.4

- 1) 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売。アルミの再選別とは、1次発生したアルミの純度を上げるために、平成18年度～20年度はバッチ処理により、平成25年度からはアルミ選別設備(試運転期間を含む)により、アルミと鉄とスラグに再選別し、除去した鉄とスラグの総量である。なお、再選別した鉄はそのまま副成物(鉄)として取扱い、スラグは、平成18年度～20年度は再溶融処理、平成25年度からはセメント原料として有効利用した。
- 2) 溶融スラグは、上記販売量のほか、試験研究のために2,858.8トン(試運転～平成26年6月)を使用した。
- 3) 溶融スラグの処理量とは、鉛含有量が基準値を超過したスラグを粗大スラグと混合しセメントの原料として有効利用した量である。
- 4) 粗大スラグ、シルト状スラグ、清掃ダストの発生量・販売量・処理量は、処理量対策として再溶融を止め、有効利用を開始した以降の数値を記載している。
- 5) 粗大スラグは平成18年10月から有効利用しており、その販売量は溶融スラグの合計販売量の(内数)である。なお、第15回管理委員会にて報告したとおり、平成20年9月以降、粗大スラグの混合比を発生量に対してその75%、50%、25%混合したアルカリシリカ反応性試験を追加実施している。
- 6) 粗大スラグの処理量とは、製砂スラグに混合できない粗大スラグを製錬珪砂代替品(平成21年度)やセメントの原料(平成22年度～)として有効利用した量である。
- 7) 溶融スラグ及び粗大スラグの発生量は、破碎・分別する前の銅、アルミ、シルト状スラグを含む。
- 8) 仮置き土の発生量とは、仮置き土を高温熱処理するためロータリーキルン炉に投入した量であり、処理量は高温熱処理の後、セメント原料として有効利用した量である。
- 9) 不溶化ダストは平成19年10月から溶融飛灰と一緒に処理しており、その発生量・処理量とも溶融飛灰に含まれる。

## 3 見学者数

(単位:人)

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	累計
豊島側	3,514	5,489	3,240	2,605	1,922	1,876	1,806	1,561	1,754	1,776	1,914	400	27,857
直島側	4,935	7,827	5,297	4,114	3,867	3,471	3,673	3,064	1,768	1,957	1,634	546	42,153
計	8,449	13,316	8,537	6,719	5,789	5,347	5,479	4,625	3,522	3,733	3,548	946	70,010

# 豊島処分地の掘削状況について

単位：t

		掘削現場からの搬出量		海上輸送量	直島処理量
		均質化物	仮置土		
6月	計画	5,520	322	7,068 (5,842)	5,842
	実績	5,382	414	6,405 (5,507)	5,863
7月	計画	4,784	364	6,211 (5,148)	5,148

※海上輸送量の値は豊島での溶融助剤添加量を含み、括弧内の値は廃棄物のみの輸送量を示す。

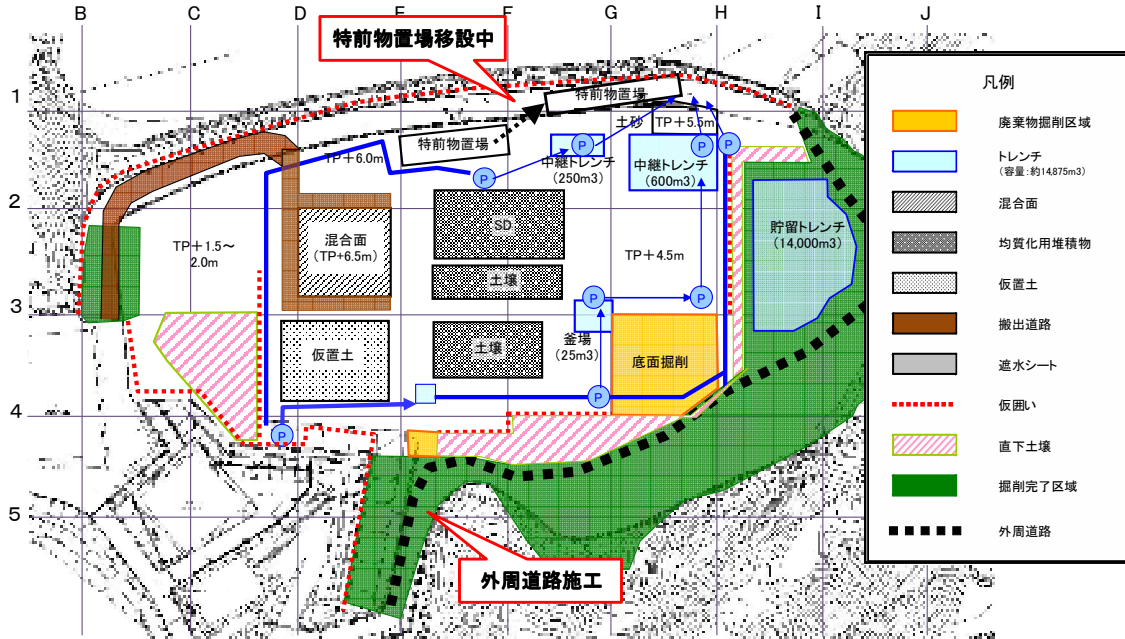


図1 平成26年6月掘削実績

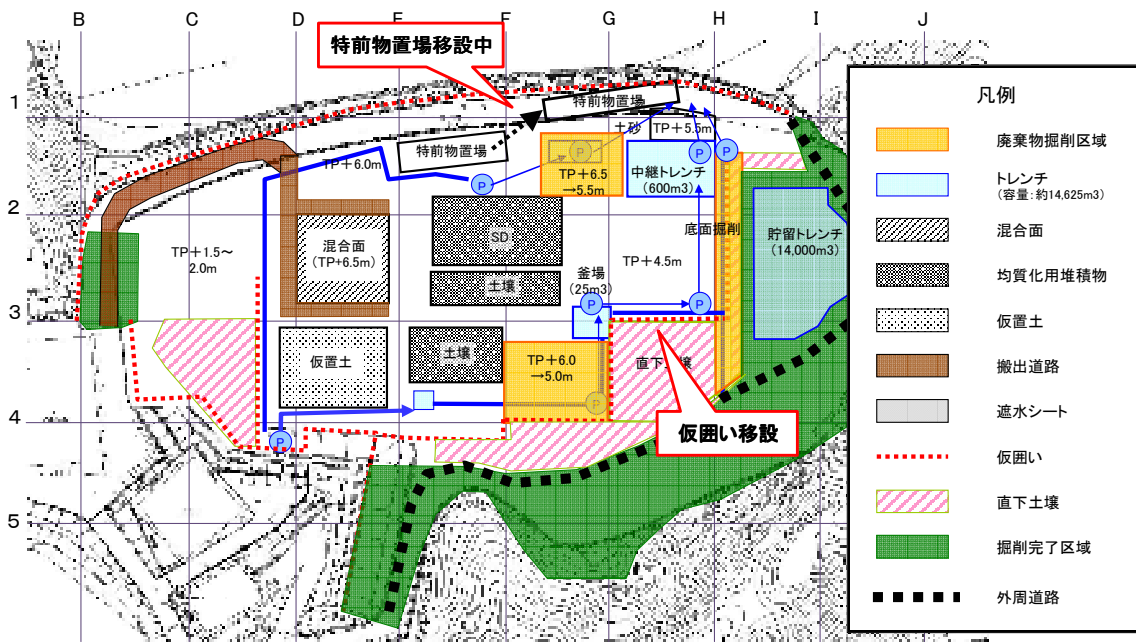


図2 平成26年7月掘削計画